

流鏑馬馬場

この250メートルの馬場では、毎年流鏑馬が奉納されます。流鏑馬は古代より伝わる伝統で、儀式的な装束を身にまとった射手が、馬場の東端から西端まで全速力で馬を駆けながら、馬場に沿って設置された3つの的を弓矢で狙います。流鏑馬の儀式は、武士の守り神である八幡神に奉納されるもので、的は馬場の南側に設置されます。これは、流鏑馬神事が神様に見て貰う為の神事であり、神様に矢を向けないとした考えに基づいています。

騎射はもともと、純然たる武術であり、中世の日本では戦場で大変役立つ技でした。しかし次第に、神社や京都御所で行われる儀式に変化しました。鶴岡八幡宮では、この神社を創建した鎌倉幕府初代将軍の源頼朝（1147-1199）の命令で、1187年に初めて流鏑馬が奉納されました。頼朝は自身に仕える武士に、徹底的に弓道の訓練をさせました。

小笠原流は、その伝統を受け継いでおり、9月16日の格式高い神事において、流鏑馬を奉納します。流鏑馬神事は4月の鎌倉まつりでも行われます。その際には、別の流派である武田流が担当します。